REGULAR
CLOSE UP

# 心臓血管外科

## 高度な医療を より安全に

心臓血管外科
部長
渡辺　祝安

### 当科の概要

昭和39年に当科開設以来、多数の心臓疾患（弁膜症、狭心症など）、大血管疾患（動脈瘤）、末梢血管疾患（閉塞性下肢動脈硬化症、静脈瘤）および血液透析の内シャント手術を行っています。

現在のスタッフは渡辺祝安（部長）、中村雅則（副部長）、黒田陽介、橋口仁喜の４名で、平成22年の手術実績は、心臓大血管（胸部大動脈）60例、大血管（腹部大動脈）36例、末梢動脈27例、静脈瘤29例、内シャント関連349例でした。

### 当科の特徴

狭心症に対する冠動脈再建術の当科の基本方針は、動脈グラフトを用いたOPCAB(心拍動下冠動脈バイパス術)で、平成22年に行った冠動脈再建術は22例でOPCABの完遂率は100%でした。

胸部、腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術は、従来の手術方法に比べ低侵襲であるため入院期間も短くてすむなどの理由により急速に普及しております。当院でも、平成20年にステントグラフト内挿術実施施設認定を受け治療を開始いたしました。症例数は年々増加し、平成22年のステントグラフト内挿術実施数は胸部大動脈瘤８例、腹部大動脈瘤29例でした。患者さんの最高齢は95歳で、腹部大動脈瘤破裂1例を除く36例の初期成功率は100%でした。

昭和46年より当院において血液透析室が開設されて以来、当科は内シャントの作製にたずさわっております。平成18年５月より当院腎センターの協力のもとに内シャントセンターを開設し、市内で血液透析を受けておられる患者さんの内シャントトラブルに迅速に対応しております。過去５年間に施行した内シャント関連手術数は1449例に達しております。

### 今後の展望

今年４月より循環器センター開設の運びとなりました。患者さんの受け入れをより一層円滑にし、循環器疾患に対するより高度の医療をより安全に行うように努力いたしますのでよろしくお願いいたします。

前列右より：渡辺部長・中村雅則副部長
後列右より：黒田陽介医師・橋口仁喜医師